



JANSI ニュースレター

お問い合わせ先

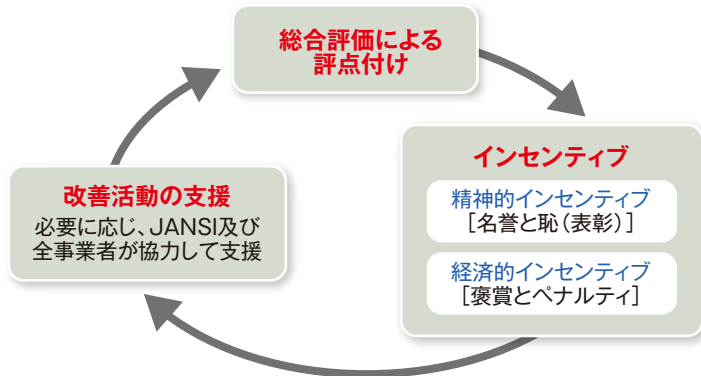
原子力安全推進協会 事業戦略本部
総務部 広報グループ
TEL : 03-5418-9312
FAX : 03-5440-3606
e-mail: newsletter@genanshin.jp
HP: http://www.genanshin.jp/

Vol.15(2016年秋)

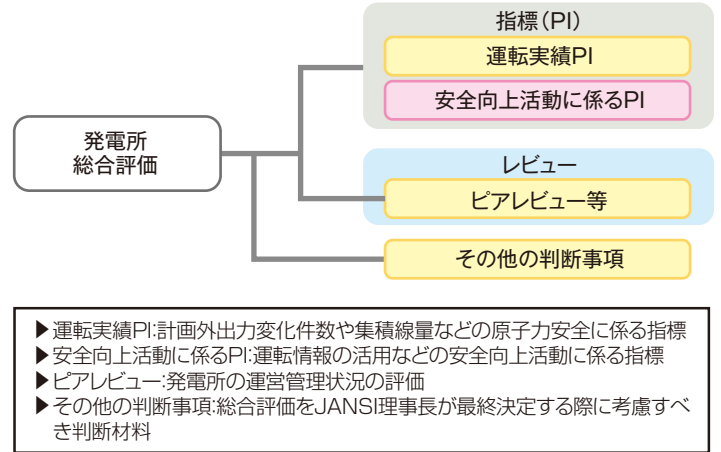
本ニュースレターは、当協会と接触のあったマスコミ関係者の方々に対して、当協会の活動状況をお知らせするために作っています。

発電所総合評価システム～自主的安全性向上に向けた取組み

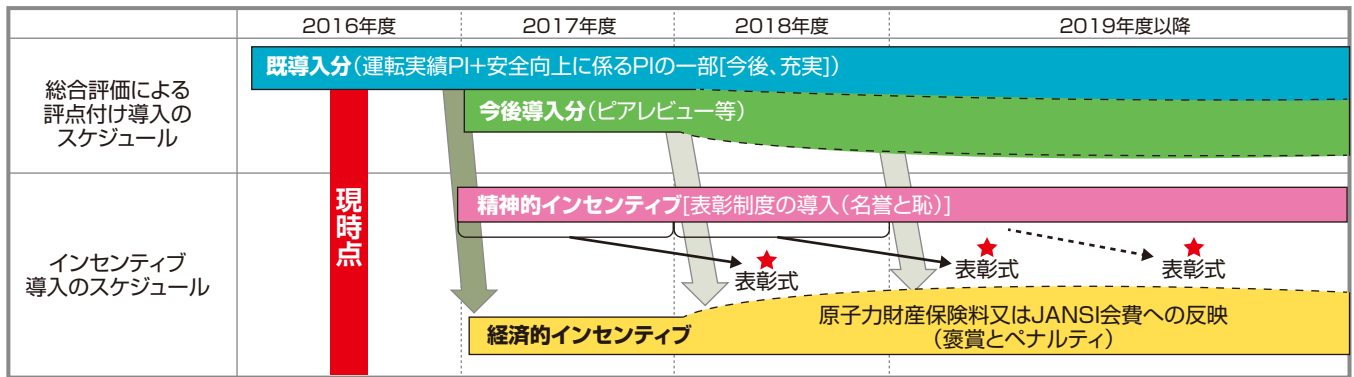
発電所総合評価システムは、主に稼働中の原子力発電所を対象に、原子力発電所の安全に一義的な責任を有している事業者の原子力安全に取組む活動等を総合的に評価し、そのランク付けに基づいて事業者に自主的な原子力安全向上のインセンティブを与えて改善に繋げ、支援を必要とする事業者には、必要に応じてJANSI及び他の事業者が協力して支援を行う仕組みです。



発電所総合評価は、発電所の安全運転の実績や安全向上活動の客観的なデータに基づく指標(PI)、発電所の運営管理状況の評価(ピアレビュー)等に基づき実施し、最終的にはJANSI理事長がその他の状況も勘案して、5段階の評点を決定し、ランク付けを行います。



JANSIでは、総合評価システムが発電所の自主的な安全性向上への取組みを効果的に活性化する制度となるよう事業者とも意見交換を行いながら仕組みの構築を進め、構築できたものから順次運用することとしており、既に運転実績PI等に基づく評価を開始しています。



事業者自主的な原子力安全向上のインセンティブを与えるための第一の仕組みは、発電所総合評価結果を通知することにより自社発電所の客観的ランクを認識してもらうとともに、事業者CEO間で総合評価の結果を共有し、ピアプレッシャーを通じて自主的な安全性向上への取組みを加速することです。JANSIは、ピアプレッシャーがより有効に動くよう、発電所運営評価(ピアレビュー)の導入以降に「精神的なインセンティブ」として、総合評価結果等に基づく表彰制度等を構築したいと考えています。

第二の仕組みは、総合評価結果に応じて原子力財産保険料又はJANSI会費を割増引きする「経済的なインセンティブ」であり、精神的インセンティブを補完する刺激策と位置づけており、少額で実施する計画です。

当初は事業者が支払うJANSI会費に反映する計画ですが、将来条件が整えば、総合評価結果をより直接的に反映できる原子力財産保険に変更したいと考えています。

発電所総合評価システムの運用を通じ、JANSIと原子力事業者は原子力の一層の安全性向上に向けた自主的な取組みを加速させていきます。

JANSIのミッション(経営理念)

JANSIは、日本の原子力産業界における世界最高水準の安全性の追求(～たゆまぬエクセルシオの追求～)を確実なものとするため、原子力事業者の自主的継続的安全性向上活動を牽引する。

JANSIのビジョン(ミッション達成のための未来図)

JANSIは、原子力産業界の原子力安全確保における自主規制組織として、自らを高め、原子力安全における基準となるエクセルシオを明確化し、事業者にエクセルシオ追求を求めている。また、原子力施設評価を通じてエクセルシオとのギャップを同定し、必要な支援活動を実行している。

「原子力防災訓練アシスタンスビジット」を志賀原子力発電所で実施

北陸電力志賀原子力発電所が10月18日(予定)に行う総合防災訓練を対象として、JANSIでは7月から第5回目の「原子力防災訓練アシスタンスビジット」を実施しています。

アシスタンスビジットとは

JANSIでは、2013年1月に事業者が実効性のある訓練計画を作成する際の手引きとなる「原子力防災訓練ガイドライン」を制定しました。引き続き「原子力防災訓練検討委員会」を設置し、原子力防災と緊急時の対応について各種の支援の取組みを行っています。

アシスタンスビジットは、事業者が行う原子力防災訓練が実効性を確保し内容が向上するよう同委員会のメンバーによるチームが訓練を実施する事業者に対して助言・提案を行う活動でユニークな取組みです。

アシスタンスビジットの進め方

アシスタンスビジットのチームは、防災緊急時対応業務に従事する事業者の実務者、この分野の有識者、そしてJANSI関係者で構成されます。

アシスタンスビジットでは、「訓練の成否は段取り(訓練計画)にある」という考えのもと、実施事業者が訓練計画を作成する段階からチームがその内容について確認を行い、これに基づき実施事業者に具体的な助言・提案を行います。チームと実施事業者による数回にわたる検討会の後、実際の訓練に臨みます。

なお、この活動は「ピアレビュー」ではありませんので、改善のための指導や要望は出しません。アシスタンスビジットで出された助言等は、その採用時期や方法など発電所の状況に応じて柔軟に訓練計画に反映されます。

他事業者も協働

また、訓練の実施事業者以外の事業者がチームのメンバーに加わることも、この活動の特徴です。チームに参加した事業者は自らの経験に基いた助言を行うだけでなく、他発電所の事例を観察することにより、自社の訓練計画の「強み」「弱み」を把握することができます。

また、チームメンバーとして「訓練を観る立場」に立つことで、訓練内容を評価するスキルを向上させることも期待できます。このため、アシスタンスビジットチームに各事業者とも積極的に参加しています。

JANSIでは防災訓練内容の実効性向上とその充実を図るため、原子力防災訓練検討委員会において継続して観察してまいります。



訓練内容を事業者と議論

回	対象発電所	実施時期	チームメンバー
1	東北電力 東通	2014年5月～8月	事業者(北海道、中部、北陸)、有識者、JANSI
2	中国電力 島根	2014年11月～2015年3月	事業者(東北、東京、日本原電)、有識者、JANSI
3	中部電力 浜岡	2015年6月～8月	事業者(東北、日本原電)、有識者、JANSI
4	日本原子力発電 敦賀	2015年12月～2016年2月	事業者(中国、北陸)、有識者、JANSI
5	北陸電力 志賀	2016年7月～10月	事業者(東京、中部、日本原電)、有識者、JANSI

IAEA OSARTワークショップをJANSIで開催

8月23日～26日、IAEA主催の「Training Workshop on OSART* Methodology (OSARTワークショップ)」が開催され、国内事業者及びJANSIから合計33名が参加しました。

本ワークショップはIAEAから日本政府を通じて依頼を受けたJANSIが実施の支援をしたもので、OSARTのプロセス及びIAEAの安全基準について原子力事業者の理解を深めることや、将来的にOSARTの活動に参加してもらうためのレビューの育成を目的としています。今回のような日本の全事業者を対象とした包括的なワークショップの開催は日本では初めてです。

ワークショップでは2名のIAEA講師がOSARTプロセスの概要、関連するIAEA安全基準とレビューにおける安全基準書類の利用について講義を行うとともに、OSARTのレビュー時の発電所での現場観察のテクニックやインタビューの訓練、報告書のまとめなどの演習を行いました。

参加者はJANSIなどの自主規制機関のレビューとの相違点等について関心が高く、「IAEAのOSARTと、WANOやJANSIのピアレビューとの共通点、相違点が理解できて非常に参考になった」といった意見がありました。この他にも「OSART及びIAEAの安全基準について理解を深めることで非常に有意義だった」「OSARTのチームリーダーの心構えの説明が参考になった」との声がありました。

また主催者であるIAEAからは「参加者はWANOやJANSIのピアレビューに関与している人も多く、具体的で的確な質問が多かった」といった感想がありました。

※OSART : Operational Safety Review Teamの略。IAEA加盟国の発電所において、運転面に着目した安全性レビューを実施している。



JANSIで行われたOSARTワークショップ